

心身の健康指標特定へ

弘前大学と、慶應義塾大学発のバイオベンチャー企業「ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ」(山形県鶴岡市)は、共同研究講座「メタボロミクス・イノベーション学講座」を開設した。弘大が誇る岩木健康増進プロジェクトの健康ビッグデータと同社の革新的メタボローム解析技術を組み合わせて、心と体の健康を守る指標を見つけ出す。さらにこの指標から健康状態予測モデルや、さまざまな疾患リスク予測モデルの構築につなげ、実用化を目指す。(成田真由美)

弘大とメタボローム・テクノロジーズが研究講座

疾患リスク予測モデル 実用化を目指す

メタボローム解析は、体内の代謝物質の(メタボロミクス)と種類や濃度を網羅的に



分析、解析する手法のこと。

同社は革新的メタボローム解析技術「CE-MS法」を用いてさまざまな研究開発を支援してきた。2016年から、岩木健康増進プロジェクト健診の血液サンプルを使った解析を開始。17年1月には、弘前大学COIにも参画している。

共同研究講座では、これまでの研究を加速させ、まずは弘大の健康ビッグデータと同社のメタボローム解析から、心と体の健康状態に関わるさまざまな指標(バイオマーカー)を特定する。さらにそれらを組み合わせるこ

共同研究講座「メタボロミクスイノベーション学講座」の設置開設を祝う関係者たち

とで、健康状態の予測モデルや、生活習慣病などの予防につなげる。将来の疾患リスク予測モデルを構築し、早期実用化を目指す。

講座は弘大大学院医学研究科に設置し、弘大の中路重之特任教授ら6人で構成。契約期間は5月1日から21年4月30日まで。7日、弘大で開かれた設置開設式には、菅

野隆二代表取締役社長、橋爪克仁取締役、佐藤敬学長、若林孝一医学研究科長らが出席した。

菅野社長は「健康状態を表す指標をつくり、その指標を基に、疾患の予知・予兆をはっきりさせ、予防的観点からヘルスケアに貢献したい」と意欲を語り、成果を挙げることで弘大COIそのものの価値を上げていきたいとの考えを示した。

佐藤学長は「メタボローム解析技術を持つ唯一の会社ということ、弘大COIは新たな力を得たこととなり、成果を高められると期待している」と述べた。

弘大の共同研究講座は14例目。